

大分大学教育学部附属小学校
平成27年度教科書用図書採択理由

【採択理由】

教科	出版社	採択理由
国語	教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさが適当で單元ごとの学習課題を子どもがつかみやすい。 ・写真や図が多く、理解の手助けになる。 ・書くことや読書単元が他よりも内容が充実している。
書写	教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方、手の置き方など裏表紙の工夫がある。 ・文字の配列 ・自分で考えさせる活動がある。 ・教科書との連動 ・ノートの横書き指導が適当なところに入っている。 ・学習過程が明確で分かりやすい。 ・基礎基本を活用する活動が仕組まれている。
社会	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・小単元末に「ふりかえってみよう」というページがあり、これまでの学習過程や学び方・調べ方・学習の終末段階での考え方の子どもも学び方が見えるように工夫されている。また、社会的な事柄についての問題点を解決するために、これまでの興味・関心を発展させた多数な教材が例示されている。（5年「環境モデル都市大阪府堺市の取り組み」6年「世界の人々のために活躍する日本人」など）。以上のことから、社会かにおける一層の言語活動の充実や問題解決を図る上での示唆となる日本文教出版社の教科書を採択したい。
地図	帝国書院	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国書院の日本地図は、地方別地図において縮尺が全て100万分の1に統一されている。このことが地図帳を開いて子どもたちが見る際に、正しい国土認識を育てることにつながるものと考えられる。また、6年の歴史学習において、日本の歴史の年表と地図がリンクされており、歴史の出来事と位置を捉えやすくなっている。（710年奈良に都を移す「平城京」1543年「種子島に鉄砲が伝わる」さらに、巻末の世界各国の東経資料において、首都・面積・人口・人口密度といった基礎資料だけでなく日本との貿易（輸入・輸出）もあり日本と外国との関わりについて学習をする際の有効な資料となる。以上の理由から帝国書院の小学校社会用地図帳を採択したい。
算数	教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ・単元構成を仕組む際に既習を意識しながら新たな学習を創造・発見し、新たな学習や生活場所に活用できるような題材を載せている。 ・学習の課題や問い子どもの考えをキャラクターから考えることができる。 ・半具体物を操作できるような教材を入れて子どもの思考を促している。
理科	大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年のはじめのページは、理科学習の学び方として、指導要領で示されている各学年の問題解決の能力を基に具体的に示し、「理科の学び方」を図や言語で分かりやすく提示している。 ・（A区分）「エネルギー」「粒子」を柱とした内容の構成と（B区分）「生命」「地球」を柱とした内容の構成は、学習内容の系統性を考えた区分構成になっていること。また、当該学年の学習が終わっても次の新しい学年（6年は中学の理解）の理科学習に期待感や意欲を持てるように系統性の大切さを重視していること。 ・学習が進んでも前に学習した観察や実験方法をすぐに振り返られるように他社にはない見開きページの工夫がされていること。
生活	大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ・大単元数が本校の教育課程を考えていく上で一単元にかける時間を長くとり、子どもたちと対象をじっくりとかかわらせていきたいと考えるため、適度な数（おおよそ学期3単元）だと考える。また、地域の人々、社会及び自然事象との関連事項が扱われている数も多い。全単元において、児童が「見つける」「比べる」活動例が示されている。「季節」「おもちゃ作り」の単元と巻末図鑑において「たとえる」活

		<p>動例が示されており気づきの質を高めるのに有効である。「自分自身の気づき」の例示数も一番多く様々な場面で扱うことができるようになっている。また、附属幼稚園との交流を続けている附属小学校として交流活動について扱うページ数が一番多いことも選定理由として大きなポイントである。挿絵や写真も多く、学習道具箱とあわせて使用することで子どもたちの気づきをより深めることができるのではないかと考える。どの部分も多いだけでなく分かりやすくキャラクターを使い分かりやすく整理されているので子どもたちにとっても親しみやすいと考える。</p>
音楽	教育芸術社	<ul style="list-style-type: none"> ・必要最小限の情報がシンプルに掲載されているため子どもたちの活動の妨げにならない。（資料や情報が多すぎると教科書に釘付けになってしまう。） ・我が国の音楽を大切にすることを育む姿勢が表れている。（季節や行事ごとに歌い継がれてきた童話や唱歌が廃れていくのは音楽教師としては危惧するところである。「歌いつごう 日本の歌」として取り上げている楽曲も発達段階に応じた適当な選曲がされている。授業や行事で活用していただきたい。）以上の理由から教育芸術社を選定致します。
図画工作	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作で大切な「ためす」「かかわる」「つくりだす」の3つの部分を分かりやすく集約されている。特に子どもたちの発達段階に合わせて分野ごとに合わせた題材を設定している。学習がイメージしやすい、教材・用具の取り扱いなども分かりやすく明確である。
家庭科	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の表紙裏から見開きで「家庭科の学習」のページがあり、学習指導要領で学習全体を貫く視点とされている。「自分の成長」が軸となった学習の見通しを持つことができる。調理実習のページは、写真を用いて見やすく分かりやすい。裏表紙や巻末に基礎的スキルや重要語句についての資料がまとまっていることで製作の場面などで振り返る時に使いやすくなっている。本文の内容も学習指導要領で取り上げられていることを丁寧に扱っており調理例は身近な食材を用いたものが多いので活用しやすく、児童の家庭実習にもつながりやすいと考える。
体育	学研	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する学習活動に沿って関連する事例が充実している。 ・図表・写真・統計の数が多く充実していて、それらが見やすく配置されているので、自分と比較しながら考えることができる。 ・単元の学習の中で用いられているマークの種類が明確で学習活動が分かりやすい。 ・基礎的な内容を実践的に理解するためのチェック項目が豊富に用いられており、自分の生活とつなげながら学習を進められる。